

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

7号

2006年10月15日

変えるべきものと 変えざるべきもの

まちづくりを考えるうえで、変えるべきか、
 変えざるべきかと判断を迫られることが多い。
 経済性と効率性が一面的に重視され、
 今まで宮々と築かれてきた地域社会の仕組みや在りようが
 大きく変化せざるを得なくなっている。

しかし、ちょっと立ち止まってみることもや、
 お互いにじっくり話し合ってみることも必要だと思う。
 そこにはきっと変えざるべきものも見つかるはずである。
 見かたによれば「無駄」や「ロス」と写るかもしれないが、
 「人と人との繋がり」や「自然環境の保護」など将来にわたって
 大切にしていかなければならないテーマが
 きっと見つかるはずである。

確かにそれぞれ価値観が違うなかで
 コンセンサス(合意)を得ることが困難なケースもある。
 けれどもそれを乗り越える努力をすることが
 必要ではないだろうか。



目次

公益信託 高知市まちづくりファンド
2006年度 公開審査会
 公開審査会の流れ/結果表 2
 プレゼンテーション
 「まちづくりはじめの一歩」コース 3
 「まちづくり一歩前へ」コース 3
 「大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース 6
 2006年度 公開審査会を終えて 7
 2006年度 公開審査会アンケート結果 8
 まちづくりファンド・フォローアップ事業 8

公益信託 高知市まちづくりファンド
2005年度 最終発表会
 最終発表会の流れ 9
 プレゼンテーション
 「まちづくりはじめの一歩」コース 9
 「まちづくり一歩前へ」コース 10
 助成金返還の報告/運営委員の紹介 13
 2005年度 最終発表会を終えて 14
 2005年度 最終発表会アンケート結果(参加者) 15
 2005年度 最終発表会アンケート結果(助成先団体) 15
 公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定 16

公益信託 「高知市まちづくりファンド」とは

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学び場になることを目的としています。多くの人にまちづくりに関心をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営を目指しています。

「まちづくりはじめの一歩」コース
 まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 定額5万円(活動事業費が5万円未満の場合は、全額助成)
 書類審査で助成先を決定します。
 助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース
 市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

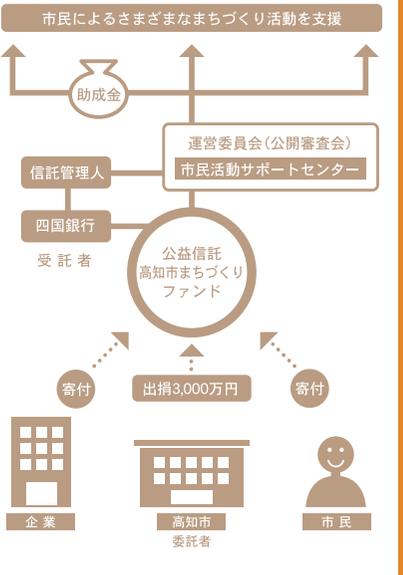
助成金額 活動事業費の $\frac{1}{3}$ 以内で、上限30万円
 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査会で助成先を決定します。

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース
 高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にしていけるために行うまちづくり整備事業を支援します。

助成金額 上限300万円(助成率100%)
 第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体に、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成し、現地調査後、第2次公開審査会において発表していただき、公開審査会で1件程度、助成先を決定します。

四国銀行コメント 株式会社四国銀行
 お客さまサポート部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていけるためのお手伝いができるよう努めていきます。事業の実施に際しましては、市民グループのみならずご協力をお願い申し上げます。



NPO 高知市民会議コメント 高知市市民活動サポートセンターの運営主体

私たちは、高知市市民活動サポートセンターの運営や、さまざまな市民活動を支援する取り組みを行っています。その一環として、まちづくりファンドの運営支援も行っています。市民の皆様への思いの実現と市民活動団体が互いに情報を分かち合い、つながっていくお手伝いのできればと考えています。いつでもお気軽にご相談ください。

私たちがお手伝いしています。

まちづくりファンドは、 皆様がまちづくり活動を 支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していただくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆様のご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、
下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
 お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1
 電話：088-823-2111(代表)
 088-871-2178(直通)
 FAX：088-824-0431

高知市 市民活動 サポート センター

まって
ま〜す!

まちづくりファンドのニュースや応募、公開審査会に関するお問い合わせは、下記高知市市民活動サポートセンターまでご連絡ください。次回の発行は、中間発表会の後になります。

1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を特定非営利活動法人「NPO 高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご利用ください。

まちづくりファンド今年度の予定

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、**高知市たかじょう庁舎6階大会議室**を予定しております。

「まちづくりはじめの一歩」コース	中間発表会	2007年 1月27日(土)
	最終活動報告書の提出期限	7月18日(水)
	最終発表会	7月28日(土)
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース	第2次審査書類提出期限	2006年 12月15日(金)
	現地調査、第2次公開審査会	2007年 1月28日(日)
	助成金の給付	2月上旬
	中間発表会(中間報告書提出)	7月28日(土)
	最終発表会	2008年 1月26日(土)

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
 TEL：088-820-1540 FAX：088-820-1665
 E-mail: npokochi@siminkaigi.com 【URL】http://www.siminkaigi.com

R100 全国組合率100%再生紙を使用しています
 この印刷物は、環境に優しい大豆インキを使用しています。

2006年度 公開審査会

公開審査会の流れ

2006年7月30日(日)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド」2006年度事業 公開審査会には、応募団体、一般合わせて、約80名が参加しました。
公開審査会はそれぞれ次の過程で行われ、下記結果表のとおり決定しました。

A 「まちづくりはじめの一步」コース

- 1 審査
- 2 団体の活動紹介



事前の書類審査にて助成団体を選考し、公開審査会の場で発表



助成対象となった団体による事業内容の説明

「まちづくりはじめの一步」コース結果表 (助成先1団体)

グループ名	申請額 (万円)	助成額 (万円)
1 健園波〜〜 (ケンケンパー)	5	—
2 船岡団地花いっぱい会	5	5
助成額合計		5

B 「まちづくり一歩前へ」コース

- 1 プレゼンテーション
- 2 一次判断
- 3 質疑
- 4 最終判断 助成事業、金額の決定



各応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載し、3分以内でプレゼンテーションを行った後、3分以内で質疑応答



各運営委員が各応募事業について(a)、(b)、(c)の3段階の判断をする
* (a)、(b)、(c)については下表参照



一次判断で(b)、(c)が多い事業への質疑応答



各運営委員が7事業を選び、助成対象として推薦する。結果、複数の運営委員から推薦された事業が助成先に決定。助成金額は申請額と同額で、減額はなし

「まちづくり一歩前へ」コース結果表 (助成先9団体)

グループ名	一次判断			最終判断	
	(a) 活動企画内容が支持し、今回のサポートが必要だと考える	(b) 活動内容についてもう少し話を聞き、今回のサポートが必要か判断したい	(c) 社会的に意義がある活動が少なく、今回のサポートは必要ないと考える	今回の助成対象として推薦する	申請額/助成額 (万円)/(万円)
1 御豊瀬ひもの祭り実行委員会	■■■■■	■		●●●●●	30/30
2 高知かがみ夢探検センター	■	■■■■■		●●●●●	30/30
3 大高城王丸祭実行委員会		■	■■■■■	●●	30/—
4 特定非営利活動法人地域サポートの会さわやか高知	■■■■■	■		●●●●●	30/30
5 大津地区地域リハビリテーション応援団	■■■■■	■		●●●●●	30/30
6 高知発達障害等親の会「KOSEI」	■■■■■	■		●●●●●	30/30
7 土佐へんろみちウォーキング倶楽部高知歩こう会	■	■■■■■		●	30/—
8 おびさんマルシェ実行委員会	■■■■■	■		●●●●●	30/30
9 ストリートダンス全国大会実行委員会	■■■■■	■		●●●●●	30/30
10 高知演劇ネットワーク・演会	■	■■■■■		●●●	30/30
11 実店舗スポーツ振興クラブ (SSSSC)	■■■■■	■		●●●	30/—
12 あったか高知花いっぱい会	■■	■	■■■■■	●●●	30/30
				助成額合計	270

C 「まちづくり大きな一歩 (ソフトからハードへ)」コース

- 1 プレゼンテーション
- 2 一次判断
- 3 質疑
- 4 第1次審査通過事業の決定



応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載し、5分以内でプレゼンテーションを行った後、5分以内で質疑応答



各運営委員が応募事業について(a)、(b)、(c)の3段階の判断をする
* (a)、(b)、(c)については下表参照



一次判断で示された(b)について質疑応答



各運営委員が助成対象として推薦するかどうかを判断する。運営委員より過半数の推薦を得たので、第1次審査通過となり、計画具体化費用として10万円を限度として助成決定

まちづくり大きな一歩 (ソフトからハードへ) コース結果表

グループ名	一次判断			第1次審査通過事業の決定
	(a) 活動企画内容が支持し、今回のサポートが必要だと考える	(b) 活動内容についてもう少し話を聞き、今回のサポートが必要か判断したい	(c) 社会的に意義がある活動が少なく、今回のサポートは必要ないと考える	
1 あいあいめっせ	■■	■■■■■		●●●●●

今後は第2次審査書類提出(12月中旬)、現地調査・第2次公開審査会(1月下旬)を経て、上限を300万円とする助成決定の可否が決まります。

A 「まちづくりはじめの一步」コース

プレゼンテーション

活動テーマ みんなでガツガツニコニコ健康になろう

group.1 健園波〜〜 (ケンケンパー)

卯月運営委員長 高知大学の学生が、まちを歩く活動を通じて、若者と高齢者をはじめとする交流の場をつくっていくという企画で大変良かったのだが、どの辺をどんな感じで歩くのか? その為には、どんなスタッフが必要で、どれくらい費用がかかるのか? 歩いた後の高齢者と若者との交流イベントの企画などについて、具体的に書かれておらず、書面だけでは意図が伝わってこなかったことが、今回、選に漏れた理由。

活動テーマ 健常者と障害者がふれあういきいきまちづくり

group.2 船岡団地花いっぱい会



船岡団地花いっぱい会を始めて5年ぐらいになる。今回、船岡団地が建て替えとなり、車いすの人を入れる住宅になった。引きこもりがちな障害者の人たちに、船岡団地花いっぱい会の活動を通じて外へ出てもらおう、というのがねらい。車いすを利用したまま、容易に花を植えられるように、台も設置したい。

玖波井副運営委員長

環境美化中心だった活動から、障害者も一緒にまちづくりに目を向けていこうという活動になった点を評価した。「外に出てみたいな」と思えるような呼びかけをして、障害者の引きこもりをなくすよう、頑張してほしい。

B 「まちづくり一歩前へ」コース

プレゼンテーション

活動テーマ 御豊瀬地域の「お祭り」による活性化とまちづくり

group.1 御豊瀬ひもの祭り実行委員会



●御豊瀬は漁業の盛んなまちだが、少子高齢化で店も少なく、さびれた状態になっている。御豊瀬の美味しい鮮魚や干物を食べてもらいたい、歴史を感じる古い

レトロなまちや、絵になるまち並みを見てもらいたいという目的で、御豊瀬ひもの祭り実行委員会を立ち上げた。3月にひもの祭りを行った時は、残念ながら悪天候で干物が少なかった。そこで、鮮魚の多い時期に祭りをしよう、御豊瀬以外の干物業者にきてもらおうという案も出ている。今年は、御豊瀬のみこしを高知工業高校の生徒が修復してくれることになる。

活動テーマ 市民の森整備と農園体験キャンプ

group.2 高知かがみ夢探検センター



●吉原河川公園周辺に芝桜を植栽して、高知県もしくは四国一と言える芝桜の里にしたいと思っている。公園の近くには吉原川が流れており、子ども遊び場と

しては大変素晴らしいのだが、現在は炊事場とテント場がある程度なので、その周辺を整備していきたい。また、公園を中心とした農園体験キャンプをし、親子で農業を体験してもらいたい。今年から稲作も始め、9月の初めには収穫をする。その他、水田の上に池を作ったり、茶畑の管理を任せ、今春は茶摘みもした。

Q&A

- Q 協力者の広がりは?
- A 横浜、長浜、浦戸にも声をかけているが、広がりはまだできていない。青少年育成協議会のメンバーは、かなり好意的に受け止めてくれている。
- Q 地域のたたちと一緒にまちづくりを考える場はあるのか?
- A 御豊瀬地区には、市内の他地域にあるようなコミュニティ計画推進市民会議はない。御豊瀬ひもの祭り実行委員会が、その役割を担っていると思うが、今は好き好きがやっているという段階で、御豊瀬の町内会から実行委員として入っていない。

Q&A

- Q 助成金の主な使途は?
- A 吉原河川公園を芝桜の里にするために助成金を使っていきたい。ボランティアの人を増やして、人力で芝桜の里にしたいと思う。
- Q 芝桜を植える土地の所有者は?
- A 河川公園は、県の土木部が管理している。「こやうりたい」と提案し、許可を頂いている。個人の土地に関しては、地主との間で話ができています。
- Q 現地の農家の人との接点は?
- A 会員11名の中に、旧鏡村、旧土山村の会員はいないが、地元の人と一緒に除草したり、池をつくらせたり、工石も登ったりしている。

運営委員

●卯月運営委員長 ●「ひもの祭り」の開催により、「干物」という高知として貴重な資源があることを知ってもらえた。次は、外からの力を借りて、内側から湧いてくるエネルギーを結集させる段階だと思う。

実行委員

●卯月運営委員長 ●一緒に維持管理をしてみよう、県に呼びかけてもいいのではないだろうか?

活動テーマ 第4回大高坂松丸祭

group.3 大高坂松丸祭実行委員会



丸。2003年、私たちは高知市に要請し、市役所の片隅にあった大高坂松丸の記念碑を市役所の正面近くへと移動してもらった。郷土の歴史を後世に伝えていこう、お城の見えるまちづくりをしよう、大高坂松丸祭を開催している。今年は、大高坂松丸展をNHKのロビーで開いた。現在、高知城の西側へのマンション建設に反対する署名運動にも協力している。

●NHK大河ドラマ「功名が辻」で高知城がクロスアップされ、全国からたくさんの観光客が訪れている。現在の高知城の場所に大高坂城を築いたのが大高坂松

Q&A

- Q お城の見えるまちづくりを展開していくための具体的な取り組みは？
- A 高知城西側のマンション建設予定地周辺の人たちと一緒に、学習会や署名活動をしている。現在、講演会に参加して、他団体と一緒にお城の見えるまちづくりを目指したい。
- Q 会員数を広げていく工夫は？
- A 高知新聞の伝言板に、ボランティア募集情報を載せるが、たまに1人増えるくらい。これからも努力はしていきたい。

イベント調度

■ 増田運営委員 ■ もう少し活動に広がりをもつことや、いろいろな人知ってもらうための取り組みが、これからの課題。
■ 田岡運営委員 ■ 支出内訳のイベント用経費を、もう少し工夫してみたらどうだろうか？

活動テーマ 移動制約者に安心・安全のサービスを提供するために

group.4 特定非営利活動法人 地域サポートの会 さわやか高知



国土交通省より出された道路運送法第80条の許可を受け、今年4月に高知市の運営協議会による協議の結果、許可を得ることができた。運営協議会で義務付けられたことは、運転協力者の実技研修と座学研修。大都市では既に行われているが、1人の受講料が17,000円～27,000円くらいかかる。参加者の受講料負担を抑え、高知でぜひ実現させたいと思う。

●13年前から高齢者や障害者の在宅介護を支援するサービスを提供してきた。ボランティアのマイカー輸送による移動サービスを続けていくため、平成16年3月、

Q&A

- Q 助成金を活用したい理由は？
- A 運転ボランティアに講習料2万円近くの研修を受けてもらうのは難しい。そのため、初年度に限り、中央から講師をお招きし、ノウハウを学びたい。来年からは「さわやか高知」独自の講習会を開き、高知市内のNPO、介護タクシー、できればタクシー事業者にもこの研修を受けてほしいと思っている。
- Q 講習を安く開催して、国土交通省の認可する要件は満たされるのか？
- A 国から示された研修に適用した研修を受けることが市からの条件。それに則った形で行ってきたい。

イベント調度

■ 堀運営委員 ■ サービスを受けたくても、入会費、年会費さえ払えない人までサポートしているような体制が現在も進行中ということなので頑張りたい。

活動テーマ 地域リハビリテーション・サポーター養成講座

group.5 大津地区地域リハビリテーション応援団



この活動を続けたいと応援団を結成。講習を修了した高齢者は、学んだ上で独居老人の話相手になつてくれるので、相手を傷つけることもなく、いい活動をしてきている。中学生たちも、近所の高齢者の家のゴミ出しなど、地域の中で役立ってくれている。さまざまな機関や人と協力し合い、住み慣れた地域で安心して暮らしていきたい。大津地区をつくって

●中学生と65歳以上の高齢者を対象に、3級のヘルパー講習や、地域リハビリのサポーター養成講座を去年1年間、高知市の運営で行った。地域主導で今後も

Q&A

- Q 講習を終え、実質活動している中学生は何名くらい？
- A 16名の中学生がおり、交代で「お助けマン」として参加してくれている。
- Q 来年以降も取り組み場合、収入の見込みは？
- A この活動がしっかり地域の中に根植していけば、地域の企業などが、賛助してくれるのではなかと期待している。講師の欄にある講師代金は県外から来てもらう2人の講師に支払う代金。約60時間もの授業に来ていただく講師たちは、ボランティアで来てくれる。計上した金額は、そういう努力をして出た金額。

イベント調度

■ 玖波井副運営委員長 ■ 修了証書入れの支出が高価で気になるので、少し工夫できないだろうか？

活動テーマ 発達障害等の正しい理解と適切な支援を広げる活動

group.6 高知発達障害等親の会「KOSEI」



い講師を招いての講演会を年3回以上計画。また、学習会を実施し、県内外の関係機関や団体と相互理解を深めたい。保育、小学校、中学校への出前講習など、理解・啓発も実践していく予定。小学校では、発達障害への理解を広げる活動の実施学校が増加し、保護者も発達障害に対する関心が高まってきている。

●今後は、今までの活動に加え、直接子どもたちを行うプログラムと、それができる人材の育成で、支援の場や人材を広げたいこうと考えている。専門性の高

Q&A

- Q 理解を広めるための支援や働きかけは？
- A 行政を通じての冊子配布と、保護者として発達障害を正しく理解してもらうためのパンフレット作りをしている。講演会については、学校の先生の関心が非常に高い。普段の学習の中で気になる子の相談を受け、出前講座依頼の話も出てくるようになった。
- Q 学校現場での理解度を高めるための工夫は？
- A 各小学校で発達障害理解のためのキーマンとなる会員を、先生でも保護者でもいので、最低1人は会員に迎たい。まず、発達障害について、正しく認識してもらうよう、保護者の立場から各学校に訴えていきたい。

イベント調度

■ 半田運営委員 ■ 賛助会員も含め、会員を増やしていくためのしっかりとした展望もあるので良いと思う。

活動テーマ ウォーキングを推進し自然愛護と健康増進と心身の滋養を図り明るい社会の発展に寄与する

group.7 土佐へんろみちウォーキング倶楽部高知歩こう会



が行われているが、高知では今まで行っていなかった。みんなと一緒に高知市内を歩き、子ども連れでも歩きやすいコース、初めて歩く人ための分かりやすいコース、地元の人しか知らないコースもマップで紹介していきたい。主に、高知市内でこみを拾いながら、ほぼ毎日歩く活動をしている。

●80～40年の歴史ある全国組織の日本ウォーキング協会と一緒に活動する。同協会では、3万人規模の全国的なウォーキング

Q&A

- Q ウォーキングを通して、地域の人とのつながりは？
- A 1人がこみを拾い始めると、みんながこみを拾い始める。毎日高知市内を歩いているのだが、これが広がり、市民活動へとつながっていくのを感じていると思う。
- Q 来年度の資金は？
- A 会員数を増やし、会費で賄っていく予定。助成金がおりなかった場合は、自己負担で頑張っていく。今年度は会員を100人集めたい。理解のある人が高知市内に増えることで、県外の人たちとのつながりも生まれたり、交流の輪も広がっていったりすると考えている。

イベント調度

■ 堀運営委員 ■ ウォーキングを通して、地域の人と人とのつながりのようなものを感じることができなかった。

活動テーマ おびさんロードから魅力ある新しい文化を発信して、中心商店街活性化を目指す

group.8 おびさんマルシェ実行委員会



によって、商店街の回遊性を生み、若い作家も育てようとした。おびさんロードの自由な雰囲気を生かすため、食とアートだけに特化している。日よけのバラソルやブース、テーブルなどを各自で用意してもらっているが、若い人は人手不足や資金不足で準備ができていない。こういった若い人たちにバラソルやブースを用意してあげたい。

●おびさんロードの商店街で2～3カ月に1回のペースで開催している。イベントを開催すること

Q&A

- Q バラソル、ワゴンの貸し出しは無料か？
無料だと、工夫を凝らしたおもしろさがなくなるのでは？
- A 無料で貸し出す。バラソルやテーブルが用意できないために出店できなかった人たちに声掛けをし、じっくり打ち合わせをして、今までやってきたものをなくさないように呼びかけたい。
- Q 商店の評価は？
- A 感謝の気持ちを示す店、共に参加する既存店がある一方、顧客離れを問題とする店もある。そういった店とは何度か話し合っ、「各店舗でお客様を入れる工夫をするよう頑張ってもらいたい」ということで、理解はしてもらっている。
- Q 他の道路でもやる計画はあるのか？
- A 出張のような形で、その商店街に合った出店を提案することはできると思う。

イベント調度

■ 堀運営委員 ■ 高知市内、県下の商店街へ呼びかけて、出前マーケットを提供してみたい？例えば、バラソルを貸し出す工夫や、トータル的にマネージメントするような動きがあってもいいと思う。

活動テーマ ストリートダンスを通じた、若者によるまちづくりへの参画

group.9 ストリートダンス全国大会実行委員会



つつある。実行委員の若者たちは、毎月第2土曜日に行うダンス、土佐二十四万石博でのイベントなど、中心商店街での各種イベントを通じ、商店街の皆さんと世代を超えて交流している。若者が考え、行動し、実行に移し、本当の意味での若者によるまちづくり、地域社会への参画を、大人がサポートしていくことができればと考えている。

●大会の規模がだんだん大きくなり、札幌でバトルランナーズの予選大会を行いたいという話もある。全国各地の代表が高知へ集合ということも夢ではなくなり

Q&A

- Q 今後の協賛金、助成金の見通しは？
- A JAL、NTT、NTTドコモの各社がスポンサーになってくれており、サポート委員会の代表としても参画してくれている。今後、更に協賛を広げていきたい。
- Q 助成金の主な使途は？
- A 商店街内で毎月行っているイベントでの音響費用、ステージやパネルの維持など。また「第2土曜はダンスの日」や、ワークショップも継続し、「自分もやってみよう」と思えるような環境づくりのためにしたい。

イベント調度

■ 玖波井副運営委員長 ■ 大会やイベントももちろん大切だが、若者を巻き込んでのワークショップや地域に広げていく活動も頑張ってもらいたい。

活動テーマ 演劇をあらゆる市民のそばに～アートNPO活動

group.10 高知演劇ネットワーク・演会



まち全体の喜びや力となるよう、「アートのあるまちづくり」を提案したい。ファンで知り合った「いこうちや祭」などから、「上演してもらえないか」と声をかけてもらった。6月の演劇祭では、県立美術館が共同主催に入り、障害者割引を行った。国際的にも頑張っていきたいが、2007年は丁寧に再構築していきたいと思う。

●演劇には力がある。生身の体から発せられるエネルギーが観衆を揺さぶる。豊かなまちづくりに文化が不可欠で、アーティストの生み出す作品や演劇が、

Q&A

- Q 3回目の申請になるが、今年の特徴、新しい視点は？
- A 聴覚障害者のための上演台本の貸し出しを考えていたが、「手話をしるべ」の申し出があった。高校生の上演支援であるハイスクールシアターは大きな宝。また、親子観劇のための、ワクワクコインチケット(500円)を新設した。今後は、演劇体験となるリーディングのワークショップなどを演劇祭の中に組み込む予定。
- Q 県のNPO地域支援ファンドで行う事業との違いは？
- A 県のファンドは、高松の演劇祭への参加費用、佐川町桜座の町民劇団の支援や、作品を高知市外で上演する事業に限定しており、市のファンドは、演劇祭KOCHIを構築していくため、高知市内での開催で申請している。

イベント調度

■ 堀運営委員 ■ 他の団体から助成を受けるのは、なかなか難しい領域だとと思うので、できるだけサポートしたいと思っている。

高知市まちづくりファンドも四年目に入り、C部門が加わって、三部門となりました。テーマは多岐にわたり、活動も熟度が高く、充実してきています。市民がどのようなメッセージを送り、どういう活動ができるかを議論する中で、「みんなで一緒につくり上げていく」という印象を受けました。

毎年、波はあるものの、ハードルが低く、取り組みやすいA部門の応募件数が、今年度は二件と少なく、残念でした。A部門の事業がB部門、さらにC部門へ行くということと想定していますので、昨年度のように、B部門と遜色がないような事業を期待しています。最初に活動を始めたという時のエネルギーはすごく大きいわけですので、助成先となった「船岡団地花いっぱい会」の皆さんも、そのエネルギーを一年目にぐっと出して頂きたいと思っています。

B部門は、十二団体の応募の中から九団体が決まりました。応募二回目や、二回目のグループが半分ぐらいあり、助成三年目の団体も出てきたことで、これまでの実績が見えてきました。二回目、三回目というのは非常に難しいんです。特に助成三回目の「演劇ネットワーク・演劇」は、すれすれのところで通りました。とてもいい活動をして、高知のまちづくりに貢献していると思いますが、三年目の展開としては、何かキラリと光る、訴えるものが少し欠けていたかもしれません。より分かりやすい活動、次の自立の道へ進むための活動でなければいけないわけですね。市民団体の先頭を行くグループの一つですので、「三年経つと、こうなるんだ」という期待が審査をする運営委員にもあるのだと思います。また、二回目のグループには、

一回目の思いを超えて、生じた問題をどういう形で乗り越えることができるか議論をしないと、三年目も難しいところがあるでしょう。

今年度、C部門が新設となり、その趣旨や進め方はまだ普及していませんが、B部門に申請した団体の中で、「C部門でも良かったかな」という事業がいくつかありました。

例えば、「高知かがみ夢探検センター」では、第一次審査で、「民間の土地にも公共の土地にも、芝桜が一面に咲いたら綺麗だろうな」というイメージを出していたので、第二次審査までに、「第一次審査がOKだったので、協力して下さい」と民間や市役所に呼びかけ、合意を得たら、第二次審査で工事費を明確にし、園路やベンチ、街路灯の設置など、ハード整備としてC部門に応募することも可能だと思っています。

「御量瀬ひもの祭り実行委員会」は、漁村としてのまち並みが残っていて、「この家を、ひもの祭りの拠点にしよう」ということになれば、「外壁を直そう」、「みんなでペンを塗り替えよう」といった拠点整備することも可能でしょう。

また、「おびさんマルシェ」や「ストリートダンス全国大会実行委員会」も、もう少し工夫すると、C部門の可能性があるかもしれません。

「大きな一歩(ソフトからハードへ)」コースという名称にもあるように、ぜひ、次のステップを考えて下さい。ソフトなものやハードなものやうまくつながっていかば、私の知る限り、日本で初めての例になると思います。

ソフトの活動がこれだけ充実してきた高知だからこそ、ハードを生かすことができるような気がします。

今までのまちづくりというのは、小さなものを大きくし、みんなに知らしめて、どんどん広がっていく、というものでしたが、今回、C部門で第一次審査を通過した「あいあいめっせ」のシェルターは、被害者保護の観点から設置場所をオープンにできませんが、まちづくりという大きな枠組みの中では、ふさわしい企画だと思っています。限られた人が非常に困っている状況にあり、その中で提供するサービスが地域社会全体にいい影響を与える。高知市民全員に役に立つものだけがまちづくりであるとは言えません。これまでのソフトである福祉分野が、地域社会に貢献しているのと同じことです。ぜひ、高知初の事例として実践できればと期待しています。

他の大都市型のまちづくりに比べると、高知の特徴はイベントやものづくりが多いと言えます。思いついたら即行動して、何か目に見える形でやっていくという氣質があるのかもしれない。今年度助成先であるB部門の団体も、新しい形でソフトとハードがうまく融合していると思います。今後、このような高知型まちづくりが更に発信できることを期待しています。



活動テーマ 花と光ともてなす心で運動公園周辺をより快適に
group.12 あったか高知花いっぱい会



●大原町町内会の会長が主体となり、高知市営球場入り口の柳原橋付近に花を植える活動をしている。年に2~3回、鏡川保育園、第六小学校の子どもたちも一緒

に花を植えてくれる。ごみ拾いをする際に使うスコップなどの備品が必要。また、河川沿いにイルミネーションを付ける活動にも取り組みたい。周辺を明るくすることで防犯効果を促すことと、毎日2~3時間程度、イルミネーションをつけて、高知の名所にしたいというのがねらい。

Q&A

- Q 「電気設備工事」を行うということで、県の河川課へ許可申請を出しているのか?
- A 許可を得るための手続きを進めている状態。
- Q せっかく花を植えているのに、企業名の入った看板が並ぶというのは景観上どうか?
- A 看板は県内産の杉、ヒノキを使うので、明るい雰囲気になると思う。

■ 田岡運営委員 ■ イルミネーションについては年間の維持管理費・電気代等の目やすがあった方が、企業からの賛助金も得られやすいと思う。
■ 半田運営委員 ■ 今年は助成金をつぎ込んで、来年、再来年からは企業の賛助金をもらいながら継続して欲しい。

活動テーマ 商店街でスポーツ！
group.11 商店街スポーツ振興クラブ (SSSC)



な状態にしたくて、活性化のための手段としてスポーツを選んだ。2カ月に1回、商店街でスポーツをし、元気つけていきたいと思う。この事業の企画について、帯屋町商店街と、はりまや橋商店街の人からは良い反応を頂いている。目標は、商店街の秘められたエネルギーと若者の可能性を爆発させること。

●まず、帯屋町やその周辺の商店街を常に元気な、喜怒哀楽の感情がストレートに表れるよう

Q&A

- Q 具体的な開催方法は?
- A ソフトバレーボールを誰でもできるようなルールに改正し、必要に応じてマットを小学校などから借りて来るよう検討中。商店街を通行の人に迷惑をかけないような形で観戦できる方法を考えている。
- Q 今後の継続は?
- A 私たちが伝えられることを後輩にも伝え、就職後もOBとして参加できる範囲内で関わってほしい。
- Q 助成がおりなかった場合は?
- A スポンサーを回って、意地でも集めたい。

■ 増田運営委員 ■ 基本的には若い世代をすくく応援したいのだが、商店街の人たちの顔や展開が見えてこない。学校から手が届く範囲での活動のように感じられた。
■ 木村運営委員 ■ 若い人がエネルギーをもって取り組み熱意は分かるが、スポーツをすることで中心商店街の活性化につながるのか疑問。

C 「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース プレゼンテーション

活動テーマ あらゆる暴力に悩む方が安心してすごせる場所「あいあいめっせ」シェルターづくり
group.1 あいあいめっせ



●あらゆる暴力から守るためのシェルター(一次保護所)づくりをしている。24時間体制で受け付けており、暴力から逃げて来られたら、どんな人でも受け入れて、これからの生活を共に考えていく。暴力を受け、心に傷を負った人たちは、安心と信頼のできる人と出会う環境さえあれば、立ち直っていく力をもっている。つらい経験を乗り越えてきたからこそ、たくましく、自分らしく、人に優しく生きていく力をもてるのではないかと。民間シェルターを出発点として、次の段階に進んでいくべき。行政や団体を点ではなく、線でつないでいきたい。この活動が軌道に乗れば、問題行動を起こして行き場がない人たちの手助けができるような自立支援ホームも広げていきたい。

- Q 運営体制は?
- A メンバーは、電話1本でいつでも飛び出せるよう24時間体制で動ける状態にしている。正直、運営は非常に厳しいが、想像以上に支援者の輪が広がってきている。常時利用者がいるわけでもないのに、充分対応できる。
- Q グループホームは、なぜ必要なのか?
- A 行き場のない被害者たちを受け入れるのがグループホーム。今の縦割り行政では、保護者の支援が受けられない子ども、暴力を受けている子どもなどの対応は難しい。さまざまなニーズに応えるために、民間の力によるグループホームで自立できる力を蓄え、家族の再統合など、自分なりの生活を組み立てていくための準備期間をもつことが必要だと考える。
- Q シェルターとして機能していくために必要な修復工事は?
- A 建物がかかり老朽化している。一般の業者を通すと、家が1軒買える程の額が必要になるが、330万円で請け負ってくれる業者が見つかった。新品をそろえる必要はないので、使えるものは使い、利用しやすい形にした。

■ 木村運営委員 ■ 第二次審査会までに、貸借関係を明確にする方がいい。
■ 堀運営委員 ■ 公的資金が入る以上、トラブルがあった時、大きなマイナスとなる。アパートを改築する際は、建築基準法の改築届けが必要な場合もあるので気をつけてほしい。

2006年度 公開審査会アンケート結果

有効回答数:29名
開催日:2006年7月30日(日)

1 公開審査会を何で知りましたか?

運営委員会からの案内 (10)
センターだより「えぬひゃOh!」(7)
最寄りの四国銀行支店 (1)
ホームページ (1)
その他 (10)

- 参加者からの紹介 (1)
- 大学の先生から (1)
- 友人・知人 (3)
- 大学 (1)
- 審査会対象者 (1)
- 記入なし (3)

2 公開の場で審査することについて、どう思いますか?

良いと思う (27)

- 公正を維持するために (2)
- 他の団体の考えや、やりたいことが分かる。交流しやすい
- みなさんの話を聞き、良い勉強になった
- 公正な場での判断だから
- 非公開よりも、公正な感じが出るから
- 多くの人たちに審査されれば、それだけ公共性がでると思う
- 思惑がかみ辛い
- 責任感、計画性の向上
- いろいろな人を知ってもらえる
- いろいろな活動があることを知ることができる
- 各団体の活動を聞いて参考にできる
- 公平な目で審査できる
- 公平な形、お互いの取り組みが具体的に聞ける
- 納得できる
- 他の団体の取り組みや思いをじかに知ることができると、交流もできる

無回答 (2)

3 今日の審査会について、どう思いましたか?

良いと思う (25)

- 厳密な審査のため
- 別に普通だと思
- だいたい堅実な判断だったと思
- つっこみ方が厳しくない

- スムーズだった
- それぞれの意見交換ができる
- 私たちの活動の問題点を聞ける
- 事前に資料を精査され、ミーティングをされているということを知り、「なるほどなあ」と感心した。3分+3分+5分しか持ち時間がないと思っていたので、時間をかけて見てくれたらいいなと思った
- 具体的に数値化されており、判断が分かりやすい
- やりとりの中で、課題がより明確になってくる
- 時間とおりの進行ができた

良くないと思う (1)

- 3分間は短い

無回答 (3)

4 あなたの年代を教えてください。

20歳代 (8) 30歳代 (5) 40歳代 (9) 50歳代 (2)
60歳代 (4) 無回答 (1)

5 参加されたあなたの立場をお教えてください。

発表者 (11)
発表団体の一員として (12)
まちづくりに関心ある一市民として (2)
行政職員 (2)
その他 (2)

- 中間支援組織
- 大学生

<感想>

- もう少し質問時間を増やして、審査委員だけでなく、発表内容と活動に興味のある参加者も質問したり、一緒に活動できるきっかけを議論形式で行えるようにすれば、もっと盛り上がるのでは?
- 市民に密着した、市民との距離が近いと感じておもしろかった
- こんな形で、ぜひ続けてほしい
- 説明力もなかったが、少し時間が短いと思った
- 助成金の支出内容を統一したらよい。食糧費はよくない
- 3分で30万円の助成が決定できるのか
- 3年目もこれから先も頑張る
- 発表時間の検討をして欲しい (5分間はほしい)
- 交流会にコーディネーターがいると良い

2005年度 最終発表会

2006年7月29日(土) 開催の公益信託「高知市まちづくりファンド 2005年度助成事業 最終発表会」には、応募団体、一般合わせて、約60名の参加がありました。「まちづくりははじめの一步」コース5団体、「まちづくり一歩前へ」コース11団体が助成事業の成果を発表し、意見交流を行いました。



1 プレゼンテーション

1年間の最終報告を、模造紙1枚にまとめ、助成先団体が3分間で発表



2 意見交流

運営委員や参加者からの感想、また質疑に対し、助成団体が応答

A 「まちづくりはじめの一步」コース

プレゼンテーション

活動テーマ 継続は力なり
group.1 関いきいき百歳体操会



●いきいき百歳体操の継続とともに、3B体操やミュージックケアの参加者が増え、20名程が定着してきた。自治会、公民館活動など横の連携が強くなり、情報交換もしている。また、小学校の「子ども見守り隊」が発足し、自主的な参加者も出てきた。資金面では、公民館が活動費を出してくれることになった。

意見交流

Q: 参加した高齢者が、その他の活動にも参加するようになったきっかけは?

A: 地域の回覧だけでは気に留まらないので、声掛けをした。気軽に、できることから始めようという形でやっている。

VOICE

体の健康だけではなく、心の健康も確保された。地域の情報交流も行きやすくなったようで、まちづくりの目的に向かい、「はじめの一步」ではなく、2歩、3歩、進んだ感じがする。

活動テーマ 空き家を地域住民のために活用した地域おこし
group.2 高齢者の健康と福祉を考える会



●花見会、展覧会などのイベントで交流を深め、健康体操などにより地域への広がりができた。さらに、今年3月に開設したミニギャラリーを地域住民に開放し、住民の作品展を開催。パンフレットの配布や各種講演会での広報活動も行った。今後は平日の昼間だけではなく、夜間や休日に施設を利用する方法を考えたい。

意見交流

Q: 公的な介護を受けている高齢者の受け入れもしているのか?

A: 施設でもお世話できるよう、通所介護の認定も取った。介護士、看護師なども従業員として採用し、受け入れ体制も整っている。まだ利用者は少ないが、約10名が健常者と一緒に施設を利用している。

VOICE

地域で空き家を利用し、すばらしい活動をしている。1年目にしては、かなりの広がりで、皆さんに定着している。

活動テーマ 子ども学習支援
group.3 学援隊 (G. E. T)



●メンバーは30名。現在13校の小中学校現場にチューター(個人指導)を派遣している。放課後に残って子どもたちに勉強を教える活動が基本。活動の記録を元にして、ケースカンファレンス(事例検討会)を月2回、大学内で開催している。今後は、学校との連携をより深く、信頼される団体を目指し、地域教育の発展にも貢献していきたい。

意見交流

Q: 「学生相互支援企画」とは?

A: 高知大学の予算を使い、学生が立ち上げるイベントに資金を貸す事業。今後のチューター活動の資金は、市が支援してくれることになった。その他の必要経費は、学生相互企画に応募して得られる見直し。

Q: 卒業後の人材確保は?

A: 市のチューター事業に参加している学生にも声をかけていきたい。

VOICE

公開審査会で市の教育委員会にも話をするよう提案をしたが、その成果が表れていて嬉しい。これからの課題がしっかりしていると、企画という形で、補助や支援が得られやすいと思う。

まちづくりファンド・フォローアップ事業

皆さんの活動をサポートセンターも応援しています。



まちづくりファンド誕生から4年。

これまで助成を受けた団体に呼びかけて、活動の中で悩んでいるあんなこと・こんなことについて、「こうしたらいいんじゃない?」というアイデアを出しあえる“場”を準備しています。

乞うご期待!!

活動テーマ ママの笑顔は子どものしあわせ！子どもの笑顔はママのしあわせ！
group.4 育児サークル「ドリーム・キッズ」



●子どもたちにとって楽しい場であると同時に、母親がリフレッシュできる場になるように心掛け、さまざまな企画を行った。リトミックの講師を招いたり、イベント以外の活動日には、必ず絵本の読み聞かせを行っている。コンスタントに参加してくれる親子が多いことから、当サークルが楽しく有意義な場になっていると思う。

意見交流

Q: 参加者がイベントを知るきっかけは？
A: 約8割はお母さんたちの口コミで、残りの約1割がテレビや雑誌。参加者のうち、7～8割が転動族。
Q: お父さんの参加はあるのか？家族同士の付き合いは？
A: お父さんの参加は可能だが、平日ということもあり、今のところ参加はない。家族ぐるみで付き合っている人はたくさんいる。

VOICE

参加人数が多くて驚いた。ニーズがあるということ、あらためて実感した。

活動テーマ みんなでふれあういきいき体操
group.5 髷部げんきかい



●少ない会費だが、皆さんから徴収し、当初の予定より随分いろいろな面で活動できるようになった。引きこもりがなくなり、和気あいあいと笑い声が絶えないような会になった。来年4月に老人クラブを設立し、盛り上げていこうと思っている。これからは物を作ったりして、地域のふれあい美術展に出品したい。

意見交流

Q: その後、地域の団体との関係は？
A: 依然として変わらないが、ファンドの助成をうけ、活動を続けていくきっかけをもらったのだから、自分たちでできることをやってみようと思う。隣近所の人たちと気持ちよく挨拶ができるようになり、そんなつながりをもてたことを誇らしく思う。

VOICE

物作りなど右脳を使った活動も大事。作品を見せることで、自信が生まれ、生きがいにもつながる。併せて運動もすることで、健康の増進もはかれると思う。

B 「まちづくり一歩前へ」コース

プレゼンテーション



活動テーマ いのちの電話相談
group.1 高知いのちの電話協会

●高知の自殺率は、全国でワースト6。精神科医によれば、アルコール依存症やリストラが多いこと、それに伴う“うつ病”などが原因に挙げられている。助成金は相談員の養成講座に使わせてもらっているが、26名の応募があり、現在は講座の中盤。精神病院の見学実習をし、院長のお話を伺った。今後の課題は、相談員の高齢化への対策と、精神障害者の攻撃的な電話や、男性のわいせつな電話への対応である。

意見交流

Q: 養成講座の終了はいつか？
今後の相談体制の強化になりそうか？

A: 12月まで。養成講座の26名は、継続の予定なので、この修了生が加わることで、12時間は電話相談の時間が確保できると思う。

Q: 今後の費用面での展望は？

A: 今のところないが、賛助会員を増やす努力はしていきたい。

VOICE 今年ファンズの助成を受けて、養成講座を開講することができ、新たな相談員を集める見込みとなって良かった。



活動テーマ 若草ミニディサービス
group.2 若草ほのほの会

●事業は全て予定どおりに実施。その効果として、町内で自主防災組織が立ち上がった。また、実行委員会をつくり、8月に納涼祭を行う。ミニディサービスの対象である高齢者は、町内会にも自治会にもあり、町内がひとつになって何でもできる状態にある。やはり、人と人のつながりが一番大事で、子どもから高齢者まで、障害の有無に関わらず、地域の住人が「このまちに住んでいて良かった」と言えるようなまちづくりを目指していきたい。

意見交流

Q: 2年連続の助成を受けて変わったことは？

A: シートや餅つきの道具等、いろいろな道具を買うことができたが、それを置く場所がなかった。そこで自治会をお願いし、行き来しているうちに、町内会とも連携がとれるようになってきた。

Q: 今後の活動資金は？

A: ファンドの助成金に頼るのではなく、参加費プラス100円という形をとることなどを考えている。

VOICE ミニディサービスを通じて人と人とのつながりが深くなり、町内会、自治会の組織を超えて、住民に一体感が生まれた。この2年間の活動の中で、人と人とのつながりが広がったことはすごいことだと思う。



活動テーマ 御豊瀬地域のお祭りによる活性化とまちづくり
group.3 御豊瀬ひもの祭り実行委員会

●第2回御豊瀬ひもの祭りの参加者は約500名。地元の人も含めると、1,000名程来ていたように思う。お客さんの多くは、「御豊瀬祭り」というより、「干物祭り」と受け取っていた。天候の関係で干物をたくさん用意できず反省している。テレビ、ラジオ、雑誌、いろいろな団体、小学校に向けて、かなり宣伝活動をした。子どもたちがダンボールで作った獅子を持って、「いいことがありますように」とお年寄りの頭を噛んで回るなど、触れ合いができた。歴史家による歴史散歩も大変好評だった。

意見交流

Q: 干物をたくさん用意できなかったことへの対策は？

A: 御豊瀬の干物は、獲れた魚をすぐ干し、次の日に市場へ持って行くので、大量に確保するのは難しい。御豊瀬で取れた魚がよその市町村に行って干物になっていることが分かったので、次回はそういう業者に呼びかけることも考えている。

Q: 横造紙の「1年じゃ、1回じゃ、変わらない」という言葉に込められた思いは？

A: 地域の住民との温度差がかなりあるので、1回は終わらせたくないという思いを込めた。

VOICE 竹竿に干物が干されて宙を飛んでいるような風景をいつも見ることができれば、まちの魅力も倍増すると思う。



活動テーマ 縦のつながりによる豊かな心教育～手にとどく憧れ～
group.5 特定非営利活動法人 高知市子ども劇場

●子どもたちが自主的に活動に参加していくことを目的とし、体験活動を行った。8月は夏のキャンプの報告会、10月は工石山での合宿、11月は親子みかん狩りを開催した。12月の青年同士のキャンプは、スタッフの技術と意識の向上を目指していたが、大雪のため中止となった。1月はボーリング大会を開き、4月開催の春のフェスティバルは大人にサポートしてもらい、青年や高校生が企画を出し、実行委員として参加した。

意見交流

Q: 前年と比べて、何か変化はあったか？

A: 今までの体験活動は、大人が中心のことが多かったが、今回は青年や高校生が中心になって行うことが多かった。ボーリング大会も高校生が中心になり、子どもたちの反響も上々だったので、定期的に行っていきたい。

Q: 中学生、高校生がリーダーとなった時、高知市全体の小中学生を対象とした募集をしてみたいか？

A: 8月に予定している高学年キャンプは、高知大学の子ども倶楽部、環境サークルESWIKIの人にリーダーを依頼しており、今後、対象人数を増やしていくことにもつながると思う。他サークルとつながりができたことで、少し大きなイベントでも、会員の高校生や青年がリーダーとしてやっていくことができるようになる。

VOICE 大きな広がりをもつと同時に、危険なこともセットで伴ってくるので、頑張った大きな渦となり、「自然」に触れ合うことの少ない小学生、中学生、高校生をサポートしていけるような活動になれば良いと思う。



活動テーマ 学生を対象としたボランティア学習イベント(ボランティアキャンパス)の開催
group.4 こうち学生ボランティアネットワーク「ボラの会」

●ボラキャンは、学生による学生のためのボランティア学習イベント。午前中はミニ講演、午後は分科会とし、ボランティアについて学習し、広報不足もあり、参加者は10人弱と少なめだったが、学生以外の人も足を運んでくれ、「自分たちの住むまちに対する、新しい視点に気づけた」という感想をもらった。学生がまちづくりに参加するきっかけとなり、高知の活性化に貢献することができるのではと思う。より多くの人たちに参加してもらえよう工夫し、今後もイベントを開催していきたい。

意見交流

Q: 参加者が少なかった理由は？

A: また、参加者に具体的な動きはみられたか？
A: 会場である高知女子大学での広報が充分ではなかった。参加者の中で、メーリングリストに登録した人はいなかったが、「普段からやっている活動をさらに詳しくやっていきたい」、「いろいろなチャレンジしてみたい」という感想はもらったので、少しは気付きがあったのではないと思う。

VOICE プログラムを見て、企画がすごく真面目だと感じた。「参加してみたい！」と思うような訴求力のある、おもしろい企画がもう少しあれば、広がり生まれるのでは？



活動テーマ 地域元気づくり
みんながあつまれる場をつくろう！
group.6 みんなで集まれる場をつくろう会

●子ども、高齢者、障害者、みんなが集まることのできる地域の交流の場をつくりたいということでも助成を受けたが、家主から家の返却を求められ、活動としては結果的に掃除をしただけになってしまった。この活動をどうしてもやりたくて、新しい場所を探したが見つからず、残念である。ただ、一般の人にも加わってもらったり、女子大の助教授とも話し合い、行政から地域支援企画員が参画してくれたり、つながりをもつことができた。今後は、もっと地域へ出て、皆さんと一緒に活動し、いろいろな人と協力して、また応募したいと思う。

意見交流

Q: 公開審査会では、この事業は個人(応援団体)で取り組むと聞いていたが？

A: 立ち上げまでは、生協として準備していこうということになった。前段部分は組織として作っておかないと、なかなか個人でというわけにはいかない。ただ、事業として成り立っていない以上、助成金は全額返金する。

VOICE 地域のための事業を試み、ボランティアの人たちがせっかく大掃除をして、大量のごみ処分までしたにも関わらず、活動が休止となって非常に残念。



活動テーマ

子ども達と共にほたるの飛び交う自然公園を目指して

group 7

楠谷川の自然を守る会

●「ホタルの生息する川」を目標に、地域の人と頑張っている。河川の清掃、ホタルとカワニナの飼育、ホタル祭り、子どもたちの自然学習などを行った。ホタル祭りは、横内と福井町を代表する祭りになっている。ホタルとカワニナの飼育場の建設は、試行錯誤しながら進めた。飼育場で、横内小学校の課外授業をしたのがきっかけで、子どもが公園に来るようになり、その後、高齢者も来るようになった。今後は研究を深めていきながら、若い人材の発掘も進めていきたい。

意見交流

Q: 楠谷川の現在の景観状況は？

A: 公園は人間の手によって整地されたものだが、ホタルを放したり、小魚が泳ぐような池を作ったり、カワニナを生息させたりすることによって、子どもたちが自然を感じることができるようになればと思う。楠谷川では川遊びもでき、子どもたちや老人会が清掃した結果、年々ごみも減ってきた。他の地域の子どもたちも足を運んでくれるような公園と川にしていきたい。

Q: 他のホタル保護団体とのネットワークは？

A: 交流ではないが、幼虫の育成状況などの情報交換はしている。

VOICE

今、楠谷川上流のような場所がなかなかない。高知市から歩いてでも行けるような距離で、今後も残したい風景、子どもたちに遊んでもらいたい所である。



活動テーマ

携帯用ホワイトボード作りによる聴覚障害者支援

group 8

NPO法人 要約筆記高知・やまもも

●聞こえの不自由な人に文字を書いて情報を伝えている。携帯用ホワイトボード作り講習会を3回開催した。1回目は、夏休みに親子対象で行い、2回目は、難聴の人にも参加してもらったが、そういう人にも講師をしてもらった方がいいと気付き、3回目のドナルド・マクドナルド・ハウスこちらで開催した時は、特定非営利活動法人高知県難聴者・中途失聴者協会の協力で、共に講師をしてもらった。講習会では、少人数だと伝達はしやすいが、採算が合わないという問題点と、時間配分の難しさを実感した。1年間、事業縮小なして、一生懸命節約し、助成金の一部を返金することもできた。

意見交流

Q: 親子を対象とした講習会で気付いたことは？

A: 子どもや高齢者が対象の時は、予想以上に時間が取られるということ、マンツーマンで丁寧に説明しなければ伝わらないということに気付いた。それ以後は、参加者を多く募ることにこだわらなくなり、参加者の身になって考える講習会のあり方を考えるようになった。

VOICE

開催時での気付きを必ずその次に生かすという実行力に感心した。会議室は無料の所を借り、高知市市民活動サポートセンターの印刷機で安くあげるなど、自助努力をする姿勢は素晴らしい。助成金の一部返金は、大変ありがたい。



活動テーマ

「こうちのまち」と舞台芸術を繋ぐアートNPO活動

group 9

高知演劇ネットワーク・演会

●「アートNPO」として、まちづくりには文化が必要という思いで活動している。「演劇祭KOCHI2006」の開催、県外劇団との研修交流も行った。日本全国の演劇や舞台芸術、おびさんマルシェ、桜座などでも活動を広げている。また「ヘッド・ガブラー」、「誤解」など、質の高い演劇ができ、県外やソウルでの国際演劇祭出演も決まった。高知から発信された文化として、地域にいる人たちが誇りをもてるもの1つになれば嬉しい。今後は、7回目の演劇祭を成功させ、大きく活動を広げていきたい。

意見交流

Q: 「アートネットワーク」の状況は？

A: 演劇祭に当たって、ダンスや映画のグループに接触をするが、時期や場所の制約などがあり、まだ参加実現していない。交渉の中で生まれた縁で、別の劇団とのコラボレーションは少しずつ進んでいる。

Q: 高知県での観客の広がりは？

A: マスコミを通じて随分紹介してもらい、「初めて見た」という人も広がってきている。また、個別の劇団作品を見に来てくれるリピーターもおり、観劇ラリーも全部見られる率が高くなった。

VOICE

演劇だけでなく、舞踏や立体を含めた展示空間が必然的な結び付きをもつような作品となるようなネットワーク構築がされていくと良い。



活動テーマ

地球33番地・地域の掃除を通じて住民をつなぐコミュニティづくり事業

group 10

33フォーラム・劇団33番地

●議論だけでは、まちづくりは進まない。汗をかいて地域の人と交流しようということで、掃除を定期的に行い、いろいろな広がり生まれたが、一番の成果は、地元の実行力あるPTAや地域の商店とつながりができたこと。小学校の校長を交え、学校ぐるみでいろいろな活動に協力してもらっている。「33スタンプラリー」は、昭和小学校の50の店に協力してもらい、短時間で準備ができた。小学校が夏休みの宿題にしてくれて、子どもたちは活発に動いている。

意見交流

Q: どの校区でも、33スタンプラリーができれば良いと思うが？

A: まず、主体的に動いてくれる地元のメンバーが何人かいること、また、小学校と連携できる人がいることも大事であることを実感した。外部の人間の限界を地域の方が気軽にクリアしてくれた。

Q: 次年度に応募しなかった理由は？

A: これからはコミュニティビジネスの視点で、もう一歩踏み込んだ活動にしたい。50の商店主のビジネス軸と、我々の培ってきたボランティア軸を基にしながら頑張ってみようと思う。

VOICE

お地藏さんや小さい川など、まだ残っている風景、これからは残したい風景をスタンプにしたら、子どもたちに地域が見えてくると思う。



活動テーマ

発達障害等の正しい理解と適切な支援を拡げる活動

group 11

発達障害等親の会「KOSEI」

●小学校の校内研修、愛媛県のハートフォーラムへの参加、10月には海外の特別支援教育についての学習会や支援グッズの作成、ポスターやリーフレットの作成、ホームページの公開などを始めた。11月は就学前後のサポートについての学習会、12月は80人規模の講演を行い、行政や教育現場を巻き込んで、有意義な会となった。1月にはADHD(注意欠陥多動性障害)について専門的なセミナー、2月には「支援隊」にお世話になり、ケースカンファレンス(事例検討会)の中で、発達障害について話をさせてもらった。

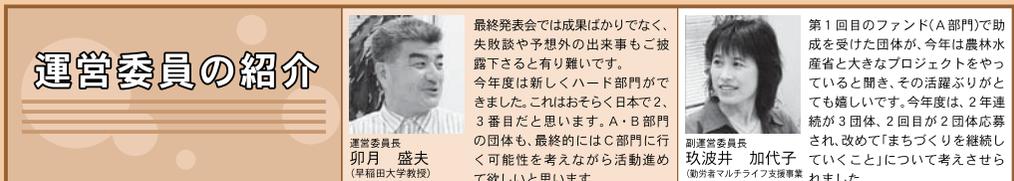
意見交流

Q: 具体的な成果は？

A: 専門性の高い講師を迎え、貴重な話が聞けたことと、学習したことを即実践できたこと。いろいろな団体との交流も図れ、啓発活動が広がった。また、小学校に人権学習の講師として招かれ、親の立場としての発表をした。課題は、関係者だけでなく、広く一般家庭にも理解を広めること。保護者が参加しやすいよう託児をしたが、保険も含め、安全面を考えなければならない。今後の活動としては、親の支援、環境整備、直接子どもと取り組むことのできる啓発活動、子どもをフォローしていく体制や、それができる人材の育成を考えている。

VOICE

1年前の公開審査会の時と比べ、新聞に取り上げられたり、学習会や講演会などの開催をすることにより、ADHDのことが認知されてきつた。教育現場でも更に取り組んでほしい。



運営委員の紹介



運営委員長 卯月 盛夫 (早稲田大学教授)

最終発表会では成果ばかりでなく、失敗談や予想外の出来事も披露下さると有り難いです。今年度は新しくハード部門ができました。これはおそらく日本で2、3番目だと思います。A・B部門の団体も、最終的にはC部門に行く可能性を考えながら活動進めて欲しいと思います。



副運営委員長 玖波井 加代子 (勤労者マルチライフ支援事業プロジェクトマネージャー)

第1回目のファンド(A部門)で助成を受けた団体が、今年は農林水産省と大きなプロジェクトをやっていると聞き、その活躍ぶりがとても嬉しいです。今年度は、2年連続が3団体、2回目も2団体応募され、改めて「まちづくりを継続していくこと」について考えさせられました。



運営委員 木村 重來 (元高知市市民生活部長)

まちづくり活動のすそ野が年々広がることに広がっている感じが、非常に楽しみにしています。それぞれの団体の活動を学ばせていただき、ざっくばらんに意見交換ができたらいですね。また、ファンドの活用を機に、自立に向けた取り組みについても是非検討してほしいと思います。



運営委員 田岡 真由美 (林)相愛)

毎回、たくさんのNPOや市民団体の方と知り合え、活動の様子をお聞きできるのは、とても楽しみです。当初からすると、NPOや市民団体だけでなく、企業にまで連携の和が広がっています。頼もしいことだと思います。



運営委員 玉里 恵美子 (高知女子大学助教授)

ファンドを通じて、多くの団体が活動の幅を広げていることを嬉しく思います。それぞれの団体が持つノウハウを共有しながら、お互いに切磋琢磨していきましょう。活動の基盤ができた外、向かって情報発信をすることに力を入れてみてほしい。



運営委員 半田 雅典 (高知県ボランティアNPOセンター)

NPOや市民活動家の方と、事業の成果、それに至る工夫、次への展望などを話すのが好きです。最終発表会では、皆さんの成果を楽しみながら共有し、審査会では申請内容を事業にどう生かし、今後の組織にどう活かされていくか、ということを視点に審査したいと思います。



運営委員 堀 洋子 (社)高知県建設士会)

ソフトが構築されて初めてハードが生かされます。地域限定ではなく、県外にもアピールする活動を支援するまでに、広がりを見せたまちづくりファンド、人と人がどれだけコミュニケーションをもつて広がっているか、使いまちづくり活動を模索して考えてみましょう。



運営委員 増田 和剛 (高知中・高等学校教諭)

今年でファンドも4年目をむかえ、私たち運営委員が、「まちづくり」とは何かという原点に立ち寄り、活動に対する助成だけではなく、地域に根ざした活動が、今後、どのように成長していくのかを見守りながら、一緒に育てていく活動へとつなげていきたいです。

お知らせ

2005年度の運営委員を務めてくださいました畠中洋行氏が2006年7月29日(土)をもちまして、退任されることとなりました。より良いまちづくりを目指して、応募団体への貴重なご助言を頂き、ファンド運営においてご尽力を賜りました。



今年(2006年)7月1日より、まちづくりファンドの運営を支援する高知市市民活動サポートセンターのセンター長に就任しました。当ファンドの受付・相談窓口として、アドバイス等を行うことになるので、公平性を期するために運営委員を退任することになりました。運営委員になって1年で退任というのは、とてもさびしい思いはしていますが、これからは裏方として、皆さんの活動のお役に立てたいと思っています。

運営委員 畠中 洋行 (元)林)渚竹まちづくり研究所 畠中研究室)

公益信託 高知市まちづくりファンド 2005年度 最終発表会アンケート結果

開催日:2006年7月29日(土)

参加者

有効回答数:15名

- 1 最終発表会を何で知りましたか? (複数回答あり)**
- 運営委員会からの案内(7) センターだより「えぬびいOn!」(3) ホームページ(2) 知人からの口コミ(2) 新聞(1) その他(1)
- 2 期待度を100%とすると、今日の満足度は何パーセントでしたか?**
- 100% (2)**
 ●毎回みなさんの活動が進歩しているのがよくなって、すごいと思った
 ●運営委員の方の助言が前向きでよかった
- 98% (1)**
 ●最後の講評が良かった
- 90% (2)**
 ●まちづくりファンドを足がけとして、こんなに多くの団体がそれぞれ努力し、町に貢献しているのだと知ることができた。すばらしい試みだと思う
 ●3分では説明を聞き足りない団体があった
- 85% (1)**
 ●改めてまちづくりファンドの意義、素晴らしさについて考えることができた
- 80% (1)**
 ●今回、初めて色々な年齢層の方の前で発表させていただいたので、全然うまく話せなかった。もっと話術を身につけたい
- 70% (2)**
 ●発表が最後までできなかった
- 60% (2)**
 ●運営委員の質問をフロアに広げると良い
 ●まちづくりとして新しいものがない
- 50% (2)**
 ●収支の考え方が不明瞭
 ●途中参加で、半分も聞いていない。スミマセン
- 無回答 (2)**

- 3 参加されたあなたの立場を教えてください。**
- 発表者(2) 発表団体の一員として(9) まちづくりに関心ある一市民として(3) 行政職員(1)

- 4 あなたの年代を教えてください。**
- 20歳代(4) 30歳代(4) 40歳代(5) 60歳代(1) 70歳代以上(1)

- 5 その他お気づきの点があれば、ご記入ください。**
- B5「ボラの会」の会計報告はこれより良いのか。4分の1自己負担というのどうなっているのか【→「まちファン」P13 右上参照】
- B1「高知のちの電話協会」法人化構想ができるような団体は助成金は必要でないと思う
- 会計報告をみると食糧費と思われるものがあるが、今の時代は助成金の会計にそぐわない
- 街づくりの形がいろいろあって、市のレベルが少しでも高くなってほしい
- 3分では自分の活動を紹介するのは案外難しいと分かりました
- 少し寒かった

助成先団体

有効回答数:14名

- 1 当ファンドの助成金を受けて良かった点は何ですか?**
- お金のことを別にすると、広報する時、話を聞いてもらいやすかった(広報紙「まちファン」を持って行った)。中間発表でアドバイスや励ましをたくさんもらった
- 自分たちの思っている事業がそのまま実現できた。事業をすることによって苦勞も味わったが、視野も広がった。第三者に評価されることで自分たちの活動を客観的にみることもできた。他団体との付き合いが広がった
- いろいろな自分たちの考えをもち、地域福祉や芸術活動にと、たくさんの方たちの頑張っている姿が、刺激になった。助成金のお陰で、私たちの活動は、現在・未来と続けられる
- 鍛えられた。自分たちのミッションを自覚することができた。他の助成申請などは当ファンドの厳しさに比べると簡単かもしれない。いい意味でも、そうではない意味でも。とにかく鍛えられたこと、成長できたことは本当に感謝している
- 他の団体との交流ができた。やることの始まりとなるきっかけができた。次へのつながりができた
- 目的をもって活動する意識づけができた。他団体と新しいつながりができた
- 確実に予算計画が立てられる
- 活動が有意義に進めることができた。会計手続きの勉強になった。社会勉強になった
- いろいろなきっかけになった
- 講師の方の需要に応えることができた(プロジェクター等、機材の用意)
- (資金面から)備品類の整備に役立てた。(活動面から)他の集団の活動状況を知り、交流できた
- 活動の幅が広がった。また、他団体との交流が増えた
- 今までにできなかったことにチャレンジができた

- 2 公開審査会について工夫したら良い点について、ご提案がありましたら、ご記入ください。**
- 30秒前が分かったら、最後、ちゃんともまとめられたかな(頭がまっ白になってしまい、何を話したらいいかわからなくなってしまう)
- 助成団体以外の人にも聞いてもらいたい
- 現状で良い(2)
- 審査基準、助成団体決定基準をはっきりしてほしい
- もっと多くの方に来てもらえたら良い
- もう少し各団体の持ち時間を増やしてほしい

- 3 中間・最終発表会について、工夫したら良い点についてご提案がありましたら、ご記入ください。**
- 時間が足りない。7月末は、一年で一番忙しい時期。すませませんか?
- 雰囲気作り、本日の赤い布の使い方はとても良い。運営委員のプロフィール一覽。オープンでできるなら知りたい。閉会まで間に交流をはさんだのは良かった。気になる団体と話ができて良かった。しかし30分は短い。せめて40分ぐらいあると、3~4団体とお話ができるように思う
- 一般の人の質問する時間が少ない
- 現状で良い
- 最終発表会の広報をもう少し力を入れてほしい。そうすれば、発表会ももっと活気がはず!!まちづくの輪も広がるはず!!
- 発表中、残り時間が分かるようにしてほしい(2)
- 最終発表会だけで良いと思う
- 発表時間をせめて5分に

- 4 次年度のファンドへの応募は検討されましたか?**
- 応募している → 2 ●応募してない → 12
- <応募しなかった理由>**
- 障害者自立支援法家がスタートし、要約筆記は従来の専任員制度から資格認定制度へ変わる。そのため資格認定を意識した勉強講座を行わねばならず、その時間を大幅にとられて余裕がなくなった
- 身近では人材が揃わないし、もう少し力をつけたい
- 別の助成金があり、活動資金の目処がついた
- 継続の見直しをつけることができた(自分たちでできる範囲でやる、ということ)
- まちづくりとは違う特別な団体なので、この会の内容にそぐわない気がした
- 自分たちの力で持続していくのに、どのような費用が必要かを見極めるため(少し強がり)
- 次年度の計画が固まっていない
- 今回は、団体としての応募企画がない
- 活動できる目処があった
- 自立を目指してガンバリ

- 5 その他ご自由にお気づきの点がありましたら、ご記入ください。**
- 他の団体との交流の場にもなっている。続けてほしい
- 自己負担金が定をひっぱる団体はないだろうか。自己負担金ゼロで行うことのできるケースも1つ、2つ欲しいと思った
- NPO活動には文化もジャンルであるので、その方面に明るい方もメンバーにいると良い
- もっといろいろな人を知ってほしい。自分の活動に似た団体との横のつながりをもつのが少ないのではないかと。しかし、すく交流のあるところもあり、格差が大きい

二〇〇五年度 最終発表会を終えて

運営委員長 卯月盛夫 (早稲田大学教授)

まちづくりファンドの三年間の蓄積、成果の輪が、じわじわと広がってきていることを実感しました。例えば、「若草ほのぼのの会」は、自主防災組織ができたり、昨年の活動が評価され、地区社協から補助金が出たり、また、来年に向けては、団体が自立するための年会費をとるなど、運営委員が考えている理想的な成長を実現してくれました。また、今年度は、A部門の五団体の活動が特にすばらしく、「わずか五万円でもこんなこともできるのか」と感じました。当初は体操系が多くて、ファンドにふさわしいか疑問にも思いましたが、それは、きっかけづくりみたいなものなんです。自分の健康のために行っている活動が、ひいては相手に対する優しさにもなっていて、ネットワークが結ばれていく。その相乗効果が地域に広がった時に、「地域の力」となっていくようです。健康、福祉、教育、そういうソフトなテーマから始まって、輪が広がっていく時、「プラスα」という相乗効果が働く、そういうまちづくりの展開の形があるのだと感じました。

そして、地道な活動が評価されたということ。たくさんの方から言葉で感謝されるのも評価の一つだと思いますが、「関いきいき百歳体操会」は公民館から、「学援隊(G.E.T.)」は高知市と高知大学の学生相互支援企画から、「鴨部げんきかい」は高知県の福祉基金から、B部門の「若草ほのぼのの会」は地区社協から、助成金や謝金をもらえることになりました。このように他団体からも認知をされるということは、大変評価すべきことだと思います。ファンドが呼び水となって、人の輪が広がり、お金も入ってくる。自立した活動を目指す意味で、まちづくりファンドが

一番目的にしていることでもありません。当初計画していた活動内容が目的どおりに使われたか、収支決算書を確認しますが、その数字の裏には、いろいろな人の思い、まちづくりに対する愛情が隠されています。今回は、三団体が助成金を返還することになりました。「ボラの会」は約八万六千円、「要約筆記高知・やまもも」も約二万三千円の返還で、この二団体が、当初の計画どおり活動したけれども、会場費やコピー代を節約し、大変な努力で助成金を有効に活用した結果です。返還してくれたお金で、また新たに輪を広げることができ、本当に感謝をしている次第です。

「みんなで集まれる場をつくらう会」は、家屋を借りて交流の場にしたい、ということと、ボランティアの方が綺麗に掃除をし、いろいろと準備をされたのですが、契約書を交わしてあるにも関わらず、家主が契約を履行して下さらなかった。そこで当初の活動目的を達成することができなくなった。そのことに関して、われわれ運営委員は、最終発表会の前に相当、議論をしました。助成金を全額使ったけれども、計画していた事業のうち、一つは実行できなかったという場合、柔軟性をもった判断をし、「返還して下さい」とは言いません。ただ、「みんなで集まれる場をつくらう会」は、家屋を借りられることを前提に、その準備段階としてお金を使いました。「家を借りるまでにお掃除をして下さったボランティアの方々」の諸経費については、返してもらわなくてもいいじゃないか、「使うことのなかった家賃にあたる金額だけを返還して頂く」という方法もありました。

しかし今回、まちづくりファンド始めて以来、初めてのようですが、「全額返して頂く」という判断に踏み切りました。ファンドの資金は、この趣旨に賛同する方々のご寄付や、高知市の皆さんの税金によって賄われており、公正な、誰もが納得のいく使い方が要求されているからです。当初の目的は、家を借りて事業を行うということでしたが、第三者によつて、すべての活動ができなくなり、その原因が、契約不履行の家主にあるとしたら、われわれは、そのことをきちんと見つけなければいけないわけです。「みんなで集まれる場をつくらう会」の皆さんが、家主の契約不履行に対し、「それはおかしいんじゃないですか」と主張するために、「一度ここで精算をし、全額お返し頂いた方が、裁判となった場合も良いだろう」という結論に達しました。「みんなで集まれる場をつくらう会」の活動自体は、おおいに評価をしていて、その趣旨に賛同しています。「次年度、環境を整えて、改めて挑戦して欲しい」ということなのです。団体もまた、継続の意志があるようなので、新たな形で支援をしていきたいと思えます。

お金というのは、生かすこともできるし、あまり役に立たないような使い方もあるかもしれませんが、皆さんの思いとか、高知の人たちをつなぐということでは、大変大きな貢献をしていることも事実です。お金を通じたまちづくり、まちづくりファンドの本質を改めて考えさせられる発表会でした。

